

# かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314



## 御野分教会

大正14年6月27日 設立  
大正15年5月7日 鎮座祭  
大正15年5月8日 鎮座奉告祭

本年の活動目標

## 「おぢぼがえり」

- ・「喜びいっぱいのおたすけ」を目指し、さあ、おぢぼに帰ろう。
- ・「人だすけのおぢぼがえり」を通して、ぢぼ一つに心を寄せよう。





行動制限なしのGW、晴天下で行われたスポーツ大会

**第14回 大教会長杯  
親睦スポーツ大会開催**

5月5日

「第14回大教会長杯親睦スポーツ大会」が、5月5日、笠岡市の茂平グラウンドで開催され、観客も含む63人が集った。



連覇の福山ブロックに大教会長杯を授与

今年の大会は、福山・高屋・直轄混合A・Bの4チームによるトーナメント戦で進められた。初戦より、どのチームも打線が活発で、少年会員から60代まで、みなそれぞれに全力プレーで、試合を盛り上げた。結果、福山が昨年に続いて2連覇を飾った。(以下の順位は次の通り…準優勝―高屋、3位―混合A、4位―

混合B)



共にプレーした大教会長夫妻を囲んで記念写真

**「親里管内学生  
新生歓迎会」開催**

5月8日・笠岡詰所

学生担当委員会

笠岡学生担当委員会(上原繁次委員長)は、5月8日、笠岡詰所で、親里管内学校新生歓迎会を開催した。



次代を担うおちばの学生たち

3年ぶりの開催となったこの日は、天理高校・教校学園高校・天理大学・専修科などの学生ら13人が参加した。開講後は、学担委員も含めた参加者を2つの班に分け、HARPの要素を取り入れたグループタイムが実施された。その中での様々な設問やゲームを通して、参加者は親睦を図り、同じ笠岡に繋がる者同士の絆を一層深めた。

# 陽だまり56 (5)

## 「桜」

ビエン・J・K

私の故郷、倉敷市玉島には、奈良時代に起源を持つ曹洞宗の古刹・円通寺がある。江戸時代後期の禅僧良寛が22歳から12年間修業した寺でもあり、この寺を中心にする円通寺公園は玉島の町を一望できる高台に位置し、桜をはじめとして四季折々の花を楽しむことができる。良寛様は和歌、狂歌、俳句、漢詩などに秀で、書の達人でもあった。諸説あるが、「散る桜 残る桜も 散る桜」は、良寛辞世の句として有名である。

——時折強く吹く春風に散りゆく桜の花は哀しい。しかし、残る花だつていつかは必ず散ってしまうのだ。人生も斯くの如く儂く、無常である。

と、この句の意味を、私は単純に考えていた。

ところがある時、この俳句に込められたもつと深い意味に気づいたのである。

妻の父親が亡くなり、告別式に参列した後、火葬が終わるのを待っているときだった。都会の火葬場の待合室はたくさんの人で込み合い、故人を偲んで話す声があちこちから聞こえた。その時、唐突に思った。

——みんな死ぬんだ。あの人も、この人も、こどもだって、そして自分もいつか必ずと。すると、不思議なことに恐れよりも妙な安心感が湧いてきた。それから、不意に「散る桜 残る桜も 散る桜」という俳句が浮かんできたのである。

桜の花が咲き、散る。しかし、翌年にはまた新しい花を咲かせ生命を繋いでいるのではないか。だから、死は楽しみである。ただ、大切なことは「親子・孫」という順番とタイミングを間違えないことだ。この句には、明るい悟りが込められているに違いないと思った。

お道では、死ではなく、出直しと呼ぶ。親神様からお借りしている身体をひとまずお返しし、しばらく親神様のふところに抱かれた後、新しい身体を借りて生まれ変わってくる。死は人生の終わりではなく、新しい人生の出発を意味するのである。

叶うことなら、いつかきつと来るその時には、旅の装いでスーツケースを持ち「それじゃあ、行ってきます」と出かけるように出直したい、桜散る春に。

◎ブログ版「陽だまり語録」をご覧になりたい場合は、スマホやパソコン等で「陽だまり語録」と検索されるか、下記アドレスを入力してください。

## 陽だまり語録



<https://hidamarigoroku-vjk.localinfo.jp/>

## 大教会だより

### ◎登用

立教185年4月21日付

理事	門脇元教
幹部承事	中島誠治
〃	岡崎真一
准承事	岡崎治喜
おつとめ奉仕人	上原千枝子

### ◎教人資格講習会修了者

(中期) 立教185年5月6日終講

葦陽 笹尾孝治

(全期) 立教185年5月11日終講

輝美濃 村田長二

雅楽奉仕人 田中正之

### ◎立教185年定期巡教

福山	上原繁道
高屋	田中隆之
神邊	田中隆之
島根	上原繁道
久松	上原志郎
弥高山	武内正美
陽備	前会長様
摩耶	田中隆之
金浦	田中隆之
興明	上原志郎
ひろさと	上原志郎
陶山	前会長様
芳井	田中隆之
海松ヶ岡	武内正美
吸江	上原繁道
照陽	上原繁道
輝美濃	大教会様
新山邑	上原志郎
皆部	上原繁道

立教百八十五年 四月月次祭 祭典役割表

胡 弓	三 味 線	琴	小 鼓	す り が ね	太 鼓	拍 子 木	ち ゃ ん ぽ ん	笛	て を ど り	お つ と め	地 方	役 割 区 分	講 話	扨 者	祭 主										
													岡 崎 真 一	山 野 弘 実	大 教 会 長 様										
													吉 岡 真 一	中 島 誠 治	大 教 会 長 様										
今 川 佐 智 子	上 原 順 子	佐 藤 香 苗	中 村 義 太 郎	三 島 涉	今 川 昌 彦	中 島 誠 治	中 村 剛	岡 崎 真 一	田 中 ま す み	前 奥 様	大 教 会 奥 様	上 原 繁 道	前 会 長 様	大 教 会 長 様	岡 田 誠	武 内 清 明	吉 岡 壽	坐 り 勤	岡 崎 真 一	山 野 弘 実	中 島 誠 治	大 教 会 長 様			
																							六 月 講 話	指 図 方	賛 者
																							吉 岡 壽	上 原 繁 道	内 海 史 郎
横 山 小 智 榮	内 海 安 子	谷 内 美 知 子	赤 木 素 志	横 山 逸 郎	田 林 久 嗣	山 野 弘 実	吉 岡 誠 一 郎	杉 原 善 朗	岡 崎 和 美	門 脇 加 津	武 内 正 美	森 本 忠 善	中 村 道 徳	田 中 隆 之	浅 野 明 教	谷 内 伸 自	佐 藤 道 孝	前 半	吉 岡 壽	上 原 繁 道	渡 邊 隆 夫	内 海 史 郎			
																							六 月 講 話	指 図 方	賛 者
																							吉 岡 壽	上 原 繁 道	内 海 史 郎
田 中 つ か さ	高 木 孝 子	岡 崎 豊 子	内 海 史 郎	山 田 敏 教	三 代 温 生	高 木 昭 祥	佐 藤 真 孝	上 原 繁 次	山 野 な つ	吉 岡 八 恵	室 悦 子	虫 明 立 生	上 原 志 浩	上 原 志 郎	渡 邊 隆 夫	杉 原 博 之	門 脇 元 教	後 半	吉 岡 壽	上 原 繁 道	渡 邊 隆 夫	内 海 史 郎			
																							六 月 講 話	指 図 方	賛 者
																							吉 岡 壽	上 原 繁 道	内 海 史 郎



普段、私は、小中学生に学習指導をしている。その中で、苦手な子が多いのが、『割合と利益』という単元だ。一般的な売買の場合、仕入れ値をできるだけ安くし、売値をできるだけ高くすれば、利益は大きくなる。

ところが教祖は、「商人なら、高う買って安く売りなはれや。」とおっしゃられた。それは、問屋が立ち、お

明石市 大教会长様  
上中市 武内正美様  
府中市 大教会长様  
東城市 上原繁道様  
服部 大教会长様  
島中 上原繁道様  
驛家 大教会长様  
葦陽 門脇元教様  
湯田原 武内正美様  
備中 中島誠治様  
神昭 前会长様  
美之郷 上原志郎様  
錦備 上原繁道様  
神免 大教会长様

客さんも喜ばせ、その道理で自分の店も立つ、という共に栄える道理であると聞かせてもらう。

また、これとは別に、近江商人の『三方よし』という精神がある。これは、『買い手よし、売り手よし、世間よし』という『三方よし』という考え方だ。彼らは、自らの利益のみを求めず、多くの人に喜ばれる商品を提供し続け、信用を得た。また、利益が貯まると、無償で橋や学校を建てたりと、世間の為にも大いに貢献した。商いは自らの利益のみならず、顧客はもちろん、世の中にとっても良いものであるべきだと考えたからである。

ここで『利益』という言葉を、個人や国家に当てはめてみる。自分の得になる事や、自国の利益のみを目指すと、周囲とうまくいかず、問題や争いのもとになるのは明らかだ。私たちは、同じ家庭、同じ地域、同じ国、同じ地球で生活を営み、限られた環境や資源の中で生きている。ならば、利益とは『相手よし、自分よし、みんなよし』でなければならぬはずである。

(つ)

## 四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原明勇 慎んで申し上げます

親神様には人間の陽気ぐらしする状を見て共に楽しみたいとの思召から この世と人間をお創造め下されたばかりではなく 日夜変わらぬご守護下さっております 加えて旬刻限の到来と共に教祖を月日の社としてこの世の表へお現れになり 万一切を明かされて陽気ぐらしへとお導き下さっております事は 誠に有り難く勿体ない限りでございます 私共は日々親心と御守護に感謝すると共に世界一列を助けたいとの思召にお応えすべく 朝夕に御礼申し上げつつたすけ 一条のご用の上に努め励ませて頂いております 特に今月十八日には教祖の二百二十四回目のお誕生日を迎え おぢばで又それぞれの教会でお祝いを申し上げると共に 今までと変わらぬ親心を以て陽気ぐらしへとお導き下さるようお願いをさせて頂きました

その中今日の吉日は これの笠岡大教会の御祭り日でございますので おつとめ奉仕人一同 お教え下さった通りに明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて四月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には春の陽気に誘われ 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げる状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月は 少年会笠岡団のおつとめまなび総会を少年会員百十七名 育成会員八十九名でつとめさせていただくことができました また月末には全教一斉ひのきしんデーが開催されます 更にまた来月は直轄教会に巡教をさせて頂きます 教祖ひながたに込められた親の思いを思案しその思いに込えられるよう精一杯成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます

何卒親神様には 世界たすけの親心にお応えし ひながたを辿る皆の真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚も自由のご守護を賜り ご恩報じを念じたすけ一条に邁進する人が弥増してお望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

## ・詰所からのお願い・

### ●詰所での宿泊・喫食について

- ・ 詰所で宿泊・喫食される場合は、「教会名・代表者名・泊数・食数」を、  
**《2日前までには、必ず》**ご連絡ください。

..... **部内教会・信者に徹底願います。**

# 立教185年 学生生徒修養会 高校の部

人類のふるさとちばに、全国から多くの友が帰り集い、合宿生活を通して絆を深め、レクチャーや行事の中で陽気ぐらしの御教えを学ぶ機会です。あなたの人生にとって、かけがえのない思い出になるでしょう。

## 募集要項

- ▽期 間・・・令和4年8月8日(月)～8月12日(金)
- ▽受講対象・・・高等学校に在学し、全期間受講できる者。  
(親里管内については天理高校第I部の自宅通学生に限り受講可能です)
- ▽募集人員・・・700名(男子350名、女子350名)
- ▽内 容・・・レクチャー、ひのきしん、おてふり、レクリエーションなど
- ▽集 合・・・8月8日 正午(昼食は済ませてからご集合ください)  
詰所にて受付票を受け取り、受付票に記載されている宿舎に集合してください。
- ▽解 散・・・8月12日 午前10時30分(予定)
- ▽受講御供・・・10,000円 詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。
- ▽主な感染症対策
- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| ・3密(密閉、密集、密接)を避ける工夫  | ・「手洗い、うがい」の徹底     |
| ・「アルコール消毒液」の設置       | ・部屋の「換気」の徹底       |
| ・「ソーシャルディスタンス」の十分な確保 | ・各所の「消毒作業」実施      |
| ・「検温」(朝夕の2回)の実施      | ・「食事、入浴」等の感染対策の工夫 |
| ・受講2週間前からの検温記録提出     |                   |

※詳細につきましては、受講願書提出後に資料を郵送しますので、ご確認ください。

## 申し込み

- ▽申込方法・・・以下の書類を調べ、直属教会長の署名・捺印をいただいた後、学生担当委員会事務局に申し込んでください。
- ・受講願書1通
  - ・返信用封筒1枚(保護者氏名、住所、郵便番号を記入し、84円切手を貼付してください)
- ▽申込期間・・・令和4年5月25日～7月25日  
(事務処理の関係上、願書はなるべく7月18日までに提出してください)

※受講にあたっての詳細及び必要事項は、書面にて7月10日以降、随時保護者宛てに郵送いたします。

Happistでも願書のダウンロード、必要事項の確認ができます。 <https://happist.net>

※受講願書は学生担当委員会事務局、直属学生担当委員会、各教務支庁にあります。

※本人の意志を確認の上、お申し込みください。

※期間中の映像や写真は、印刷物及びインターネットを通じた広報に使用することがありますのでご了承ください。

## 問い合わせ先

天理市守目堂町213-4 おやさとかた真南棟3階 学生担当委員会事務局

《郵便》〒632-8790 天理郵便局私書箱1号

《電話》0743-63-2489(学生担当委員会事務局)/FAX 0743-62-5780



高校の部  
紹介ページ